

「Kita Alps Traverse Route」ならではの

体験ストーリー集

—新穂高温泉エリア編—



2025年3月

中部山岳国立公園管理事務所

# 目次

I. 「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集の使い方 .....	1
II. 新穂高温泉の望ましい体験 .....	4
III. 新穂高温泉ならではの体験ストーリー .....	5
1. 新穂高温泉ならではの価値・魅力1	
「山岳エリアへの入口 飛騨山脈（北アルプス）の足下の大自然」 .....	6
新穂高温泉エリアは、槍穂高連峰や笠ヶ岳・双六岳黒部五郎岳などの山並み（飛騨山脈・北アルプス）に挟まれた蒲田川沿いに立地している。	
この地域を訪れる価値は、日本の奥山の雄大な景観と美しく豊かな水量の川などの自然を身近に感じることができることである。この豊かな自然と景観、風土を形成しているのは、長大な飛騨山脈の急峻な地形と火山群のおかげである。	
2. 新穂高温泉ならではの価値・魅力2	
「絶景 ロープウェイで訪れる標高 2,000m の世界」 .....	12
かつてはアルピニストだけしか目にすることができなかった北アルプスの壮大な山岳景観を、年間を通して、誰でも楽しむことができるのは新穂高ロープウェイのおかげである。	
標高 2,150m の西穂高口駅では軽装の観光旅行者と本格的な登山者が混在する。	
新穂高温泉駅から鍋平高原駅まではロープウェイの勾配としては日本一の急こう配を登る。	
3. 新穂高温泉ならではの価値・魅力3 「秘湯 奥飛騨温泉郷の奥座敷」 .....	16
奥飛騨温泉郷は、平湯、福地、新平湯、栃尾、新穂高という5つの温泉からなる。新穂高はその最も奥まった場所に位置しており、蒲田、中尾、新穂高という3つの源泉からなる。温泉ごとに泉質・成分が変わって行く魅力があり、そのほとんどが露天風呂を備え、露天風呂数は日本一とも言われている（露天風呂天国）。	
活火山“焼岳”によってもたらされる温泉は、いずれも豊かな湯量を誇る。新穂高温泉は蒲田川沿いに61か所の源泉があり、奥飛騨温泉郷の中でも最も多い。	

## はじめに

令和3（2021）年から中部山岳国立公園南部地域を中心に、松本市街地と高山市街地をつなぐ行政区分にとられない横断的な地域を一つの観光圏として捉え、多彩で上質な体験と滞在ができる魅力的な観光地へと磨き上げていく「松本高山 Big Bridge 構想」実現プロジェクトを進めています。利用と保全の好循環による持続的な観光として構想を実現するための総合循環型観光圏を「Kita Alps Traverse Route」と名付け、一体的な旅づくりとプロモーションの取組を進めているところです。

「Kita Alps Traverse Route」には、構成する地域ごとに自然・文化等の特徴的な魅力があります。こうした特徴的な魅力が、この観光圏の来訪者へ、この地域ならではの体験として提供されることで、魅力が価値として伝わり、来訪者とこの土地に特別なつながりが生まれ（満足度が向上しファンが拡大し）、この地に訪れる価値・滞在価値がさらに向上し（地域のブランド化が進み）、選ばれる観光圏が確立され、社会の充実や自然・文化等地域資源の保全につながる総合循環型観光圏の実現に至ると考えています。

本冊子『「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集』 - 新穂高温泉エリア編 - は、「Kita Alps Traverse Route」の新穂高温泉エリアの特徴的な自然・文化とそこで得られる体験を選び出し、その資源や体験の持つ魅力を価値として来訪者に「わかりやすく」、「共感できる形で」伝えられるよう、短いストーリーと解説をつけてカード形式で整理をしたストーリー集です。

来訪者がこのエリアで滞在する中で、宿やお店、バスの乗り換え場所、ビジターセンター・案内所、歩道や展望地などで、多岐にわたる利用サービスが提供されます。本冊子が、このエリアで利用サービスを提供するすべての関係者による、このエリアならではの旅づくりと旅の提供につながり、来訪者とこのエリアとの特別なつながりを強くしていくことに活用されることを期待しています。

# I. 「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集の使い方

「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集（以下「ストーリー集」）は、中部山岳国立公園南部地域の8つのエリア（上高地、山岳エリア、乗鞍高原、乗鞍岳、白骨温泉、新穂高温泉、平湯温泉、沢渡）ごとに特徴的な自然・文化とそこで得られる体験を選び出し、その資源や体験の持つ魅力を価値として来訪者に伝わりやすく短いストーリーと解説をつけてカード形式で整理をしたものです。

来訪者の方々に「Kita Alps Traverse Route」の価値に触れ、内面の変化を得てもらうことを目指し、ガイド事業者や旅行会社の方、各拠点の拠点施設や宿泊施設、飲食店、土産物店等でお客様と直接接する方、メディアの方等に活用いただくことを想定しています。

なお、本ストーリー集は、令和6年度時点に収集した情報をもとにまとめたもので、今後、内容面のさらなる充実、ターゲットやテーマに応じた磨き上げなど、計画策定後も活用をとおしてブラッシュアップを重ねていければと考えています。皆様も活用を通じてお気づきのことがあれば、ぜひ環境省中部山岳国立公園管理事務所までご意見をお寄せください。また、他のエリアのストーリー集をご覧になりたい場合も環境省中部山岳国立公園管理事務所までご連絡ください。

## <ストーリー集の活用イメージ>

### ○ガイド事業者、旅行会社の方 **地域の価値を伝える**

- ・本ストーリー集を参考に、これまで以上に「ここでしかできない体験」を提供するプログラム・ツアーを造成する。
- ・本ストーリー集掲載のカードを使って、ツアーの最後にツアー中に触れられなかった価値についても情報提供する、あるいは同じエリアの別のテーマを取り上げたツアー商品等を紹介することで、来訪者に次回訪問のきっかけを与える。

### ○観光協会やビジターセンター等の拠点施設でお客様と接する方 **地域の価値を伝える**

- ・本ストーリー集を参考に、これまで以上に「ここでしかできない体験」を意識して、来訪者に対して情報提供を行う。
- ・中部山岳国立公園南部地域内の拠点間の違いとつながりを説明することで、来訪者に対して「Kita Alps Traverse Route」の価値を紹介する。

### ○宿泊施設や飲食店、土産物店等でお客様と接する方 **地域の価値を伝える**

- ・自身の宿や店で提供する商品等について、本ストーリー集を参考にストーリーをもって説明、販売することで、「ここならではの価値」のある商品として来訪者の購買意欲を高める。
- ・自身の宿や店で利用者から地域や商品等について質問を受けた際、本ストーリー集を参考に「ここならではの価値」を紹介する。
- ・本ストーリー集掲載のカードの内容をそのまま伝えるだけでなく、地元で働く人ならではの視点を盛り込みながら、適宜アレンジして伝えることで、「ここでしかできない体験」を提供する。

### ○メディアの方 **地域の価値を伝える**

- ・本ストーリー集を参考に「ここならではの価値」を全国・世界へ発信する。
- ・本ストーリー集を活用した取組を進めている行政関係者や観光協会事務局等に取材をすることで、中部山岳国立公園南部地域における「松本高山 Big Bridge 構想」の実現に向けた動きを発信する。

本ストーリー集の構成は以下の図のとおりです。

「望ましい体験」は、このエリアの特徴的な自然・文化等の魅力に触れ、このエリアだからこそ体験しておくべき、このエリアならではの体験を、想定する旅行者像ごとに整理したものです。このエリアならではの体験ごとにストーリーと資源の解説がまとめられた「カード」が、このエリアを特徴づける資源の種類に応じた「カテゴリー」で分けられ整理されています。

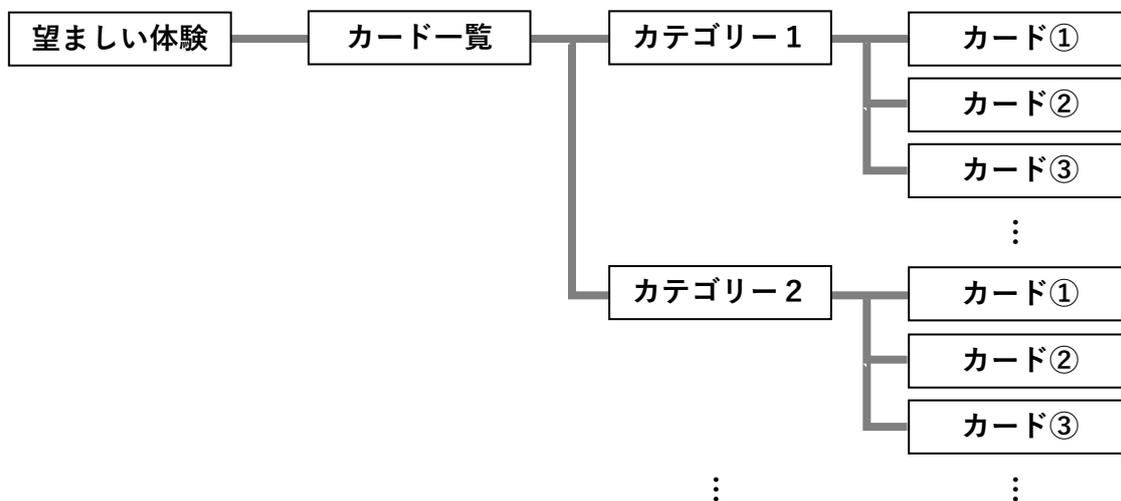


図 ストーリー集の構成

「カード一覧」には、各カードの体験を4つに分けた「ジャンル」と、旅の趣向により6つに分けた「旅行者分類」との対応を整理しています(各類型の定義はカード一覧の凡例をご覧ください)。

ジャンルや旅行者分類は、旅行のテーマやターゲットにあわせて、カードに示した体験や資源のストーリーを組み合わせる旅づくりを考える際の参考として活用することを想定しています。

カテゴリー	番号	カード	ジャンル	旅行者分類					
				ST	RV	WB	ET	FR	SI
山岳エリアへの入口 飛騨山脈(北アルプス) の足下の大自然	1-①	飛騨の国一の山「笠ヶ岳」の成立をこの目で見る	NE	●	●	●	●	●	●
	1-②	深い谷の左右で異なる植生	NE			●	●		●
	1-③	この地の災害と防災の歴史を学ぶ	NE			●	●	●	
	1-④	古をしのぶ中尾峠から焼岳へ	NE			●	●		●
	1-⑤	登山ガイドを育んだ地	NE				●	●	●
絶景 ウエイで口 の標高2,000 の世界を訪	2-①	ロープウェイで一気に標高2,000mの高所へ	NE	●	●	●	●	●	●
	2-②	土石流がつくった広大な河岸段丘・鍋平	NE			●	●		
	2-③	冬山の世界へ 新穂高ロープウェイの開発	NE						

図 カード一覧の例

各カードの構成は以下のとおりです。

カード名は、ここならではの価値やストーリーを感じられる資源や体験、背景となる情報を一言で表すタイトルとなっています。

説明文やイラストは、他のエリアや他地域の資源との違い、ここならではの価値やストーリーを表現するように留意して作成しています。

イラストの下部には、説明文の補足として、説明文に出てくる用語の解説や、説明文で紹介した価値やストーリーを実際に体験できる場所・方法等の紹介をしています。説明文のみで足りると判断したものは空欄の場合もあります。

**新穂高温泉ならではの価値・魅力 1 山岳エリアへの入口 飛騨山脈（北アルプス）の足下の大自然** ● ● **カテゴリー名**

**1-①：飛騨の国一の山「笠ヶ岳」の成立をこの目で見ると** ● ● **カード名**

笠ヶ岳は岐阜県内に所在する山の中で、山頂を他県と共有しない最高所の山であり、山体すべてが高山市奥飛騨温泉郷地内に含まれている。文字通り、「おらが国の山」であり、日本百名山にも数えられる。その形は笠の形をした独立峰の秀麗な山岳であり、見る人に感動を与える。

一方、笠ヶ岳はカルデラ火山でありながら、一般的なカルデラ火山とは違い、カルデラの周辺が浸食されてカルデラの内部が露出している。そのため、分厚い溶岩や火山の噴出でできた溶結凝灰岩が互層になっており、溶岩は節理面が発達し、垂直の岸壁となっている。新穂高ロープウェイから笠ヶ岳を眺めた際に見える明瞭な横縞模様は、複数回の噴火の跡を見ているのであり、古い火山の内部を 1,000m の厚さで観察できる場所は世界的にも非常に珍しいといえる。



日本百名山！  
カルデラ火山  
溶結凝灰岩

**新穂高ロープウェイ** 日本唯一の 2 階建て Gondola。新穂高ロープウェイは、第 1 ロープウェイと第 2 ロープウェイからなり、麓の「新穂高温泉駅」を出発、「鍋平高原駅」で下車。徒歩 3 分の「しらかば平駅」から第 2 ロープウェイに乗り継いで「西穂高口駅」で下車。

**北アルプス大橋** 新穂高温泉中尾高原と鍋平園地を結ぶ全長 150m、高さ 70m の北アルプス大橋。錫杖岳や笠ヶ岳などの飛騨山脈（北アルプス）の雄大な風景が望めるこの橋は、サイクリングやドライブルートとしても人気。

● ● **ここならではの価値、ストーリーを伝える説明文**

● ● **ここならではの価値を表現したイメージしたイラスト**

**説明文の補足（用語の解説、価値やストーリーを実際に体験できる場所・方法等の紹介）**

図 カードの例

## II. 新穂高温泉の望ましい体験

---

想定する旅行者像ごとに、新穂高温泉エリアの特徴的な自然・文化等の魅力に触れ、新穂高温泉だからこそ体験しておくべき、新穂高温泉ならではのオススメの体験は以下のとおりです。

### <子供から大人まで、初心者も上級者も>

○気軽に北アルプスの絶景を楽しむ。

- ・ロープウェイを使って、標高約 2,000m の地を訪れ、日常生活の中では見られない雄大な山の景色（槍・穂高連峰、笠ヶ岳）を間近に眺めることを楽しむ。
- ・家族で記念写真を撮り、思い出作りを楽しむ。

○多様なアクティビティを楽しむ。

- ・本地域一帯のアクティビティ等の情報を容易に入手して、HP で事前予約または当日現地の窓口で申込を行い、林間ハイキングからロープを使った登山まで、多様なアクティビティを楽しむ。
- ・多様なアクティビティの中から、初心者から上級者まで自分の活動レベルに合わせて、選んで参加し、楽しむ。

### <本地域を周遊する旅行者、Big Bridge 旅行者、アジア圏からの観光客等>

○宿泊することで得られる特別な体験をする。

- ・登山や自然観察、星空散策、キャンプ、スノーシューピクニックなど、この地域特有の体験をし、ゆっくり麓の温泉につかって旅の疲れを癒し、余韻に浸ることを楽しむ。
- ・西穂高口から、槍・穂高連峰を眺め、周辺を短時間で回る周遊ツアーを楽しみ、宿泊体験を楽しむ。
- ・夜は鍋平高原に宿泊し、翌日は次の宿泊地へ向かうといった山岳地帯の周遊ツアーを楽しむ。

### <北アルプスへの本格登山を楽しみたい人、冬山登山の醍醐味を味わいたい人等>

○北アルプス登山に挑戦する。

- ・新穂高温泉駅周辺で、情報を収集して、行程を調整・検討してから、登山届を出し、登山を楽しむ。
- ・北アルプスから下山して、次の目的地への出発・帰宅前に軽食をとったり、お土産を買ったり、日帰り温泉を楽しんだりしながら、山歩き・旅の余韻に浸る。

### III. 新穂高温泉ならではの体験ストーリー

#### <カード一覧>

カテゴリー	番号	カード	ジャンル	旅行者分類					
				ST	RV	WB	ET	FR	SI
山岳エリアへの入口 飛騨山脈（北アルプス） の足下の大自然	1-①	飛騨の国一の山「笠ヶ岳」の成立をこの目で見る	NE	●	●	●	●	●	●
	1-②	深い谷の左右で異なる植生	NE			●	●		●
	1-③	この地の災害と防災の歴史を学ぶ	NE			●	●	●	
	1-④	古をしのぶ中尾峠から焼岳へ	NE			●	●		●
	1-⑤	登山ガイドを育んだ地	NE				●	●	●
絶景 ロープウェイで訪れる 標高2,000mの世界	2-①	ロープウェイで一気に標高 2,000m の高所へ	NE	●	●	●	●	●	●
	2-②	土石流がつくった広大な河岸段丘・鍋平	NE			●	●		
	2-③	冬山の世界へ 新穂高ロープウェイの開発	NE				●		●
秘湯 奥飛騨温泉 郷の奥座敷	3-①	露天風呂からの雄大な眺めが魅力の温泉宿	WS	●	●	●	●	●	
	3-②	3つの異なる源泉を楽しむ	WS			●		●	
	3-③	蒲田川と蒲田温泉	CA			●	●	●	
	3-④	文豪と新穂高温泉	WS			●	●	●	

#### ■ジャンルの軸

- ・ Nature&Ecosystem&Conservation (NE) …自然探勝、動植物観察、マイカー規制など自然と人の共生に係る保全の取組など
- ・ Culture&Art (CA) …食文化、生活などの異文化体験、伝統工芸や芸術作品等の鑑賞、歴史探勝、地域の歴史や文化を守るための取組など
- ・ Wellness&Spiritual (WS) …温泉、リトリート体験、リフレッシュなど
- ・ Sports&Activity (SA) …登山、ロングトレイル、スキー、キャンプなど

#### ■旅行者分類

- ・ Sightseeing Tourist (ST) …有名観光地を巡る一般的な旅行者。色々な国や地域に行ってみたい層。
- ・ Resort Vacationer (RV) …海山川などのリゾート地を目指すバケーション旅行者。
- ・ Wander Backpacker (WB) …世界中を放浪するバックパッカー旅行者。
- ・ Educated Traveller (ET) …異文化好奇心を持つ旅慣れた知的旅行者。
- ・ FR Visitor (FR) …南部地域のリピーター、親戚や友人等の訪問を目的とする VFR 旅行者。
- ・ Special Interest Hunter (SI) …特定の趣味を旅の主目的とする旅行者。

# 新穂高温泉ならではの価値・魅力 1

## 山岳エリアへの入口

### 飛騨山脈（北アルプス）の足下の大自然

新穂高温泉エリアは、槍穂高連峰や笠ヶ岳・双六岳黒部五郎岳などの山並み（飛騨山脈・北アルプス）に挟まれた蒲田川沿いに立地している。

この地域を訪れる価値は、日本の奥山の雄大な景観と美しく豊かな水量の川などの自然を身近に感じることができることである。この豊かな自然と景観、風土を形成しているのは、長大な飛騨山脈の急峻な地形と火山群のおかげである。

- 1-①：飛騨の国一の山「笠ヶ岳」の成立をこの目で見る
- 1-②：深い谷の左右で異なる植生
- 1-③：この地の災害と防災の歴史を学ぶ
- 1-④：古をしのぶ中尾峠から焼岳へ
- 1-⑤：登山ガイドを育んだ地

## 1-①：飛騨の国一の山「笠ヶ岳」の成立をこの目で見ると

笠ヶ岳は岐阜県内に所在する山の中で、山頂を他県と共有しない最高所の山であり、山体すべてが高山市奥飛騨温泉郷地内に含まれている。文字通り、「おらが国の山」であり、日本百名山にも数えられる。その形は笠の形をした独立峰の秀麗な山岳であり、見る人に感動を与える。

一方、笠ヶ岳はカルデラ火山でありながら、一般的なカルデラ火山とは違い、カルデラの周辺が浸食されてカルデラの内部が露出している。そのため、分厚い溶岩や火山の噴出でできた溶結凝灰岩が互層になっており、溶岩は節理面が発達し、垂直の岸壁となっている。新穂高ロープウェイから笠ヶ岳を眺めた際に見える明瞭な横縞模様は、複数回の噴火の跡を見ているのであり、古い火山の内部を 1,000m の厚さで観察できる場所は世界的にも非常に珍しいといえる。



**新穂高ロープウェイ** 日本唯一の 2 階建てゴンドラ。新穂高ロープウェイは、第 1 ロープウェイと第 2 ロープウェイからなり、麓の「新穂高温泉駅」を出発、「鍋平高原駅」で下車。徒歩 3 分の「しらかば平駅」から第 2 ロープウェイに乗り継いで「西穂高口駅」で下車。

**北アルプス大橋** 新穂高温泉中尾高原と鍋平園地を結ぶ全長 150m、高さ 70m の北アルプス大橋。錫杖岳や笠ヶ岳などの飛騨山脈（北アルプス）の雄大な風景が望めるこの橋は、サイクリングやドライブルートとしても人気。

## 1-②：深い谷の左右で異なる植生

蒲田川沿いの右俣谷および左俣谷沿いの林道は、それぞれ登山やトレッキングルートとして親しまれており、2つの谷の分岐点には観光案内や登山指導、休憩所の機能を持った新穂高センターがある。

この右俣谷および左俣谷は一見同じような谷筋に見えるが、実は植生が大きく異なっている。それはなぜか？冷温帯に位置する飛騨山脈の潜在自然植生は本来ブナ林である。雪が多い左俣谷にはブナ林が発達したが、土壌の湿った溪谷にはブナ林は成立しないため、右俣谷にはトチノキとサワグルミの溪谷林が成立したのである。



**新穂高センター** 奥飛騨温泉郷観光案内所・休憩所および新穂高登山指導センターとしての機能を担っている。登山届はここで提出できる。

**右俣谷林道** ロープウェイの出発駅である新穂高温泉駅から右俣林道を進むと、穂高平小屋、林道の終点である白出沢を経て、槍平小屋へ至る。

**左俣谷林道** 笠新道を通してわさび平小屋へと続く格好のトレッキングコースとなっている。さらに笠新道の先を行けば、笠ヶ岳に至り、小池新道を進めば双六岳に至る。

**鍋平園地・鍋平高原自然散策路** 新穂高ロープウェイ鍋平高原駅としらかば平駅の間に広がる鍋平高原内。落葉広葉樹の森の中をゆったり散策できる。

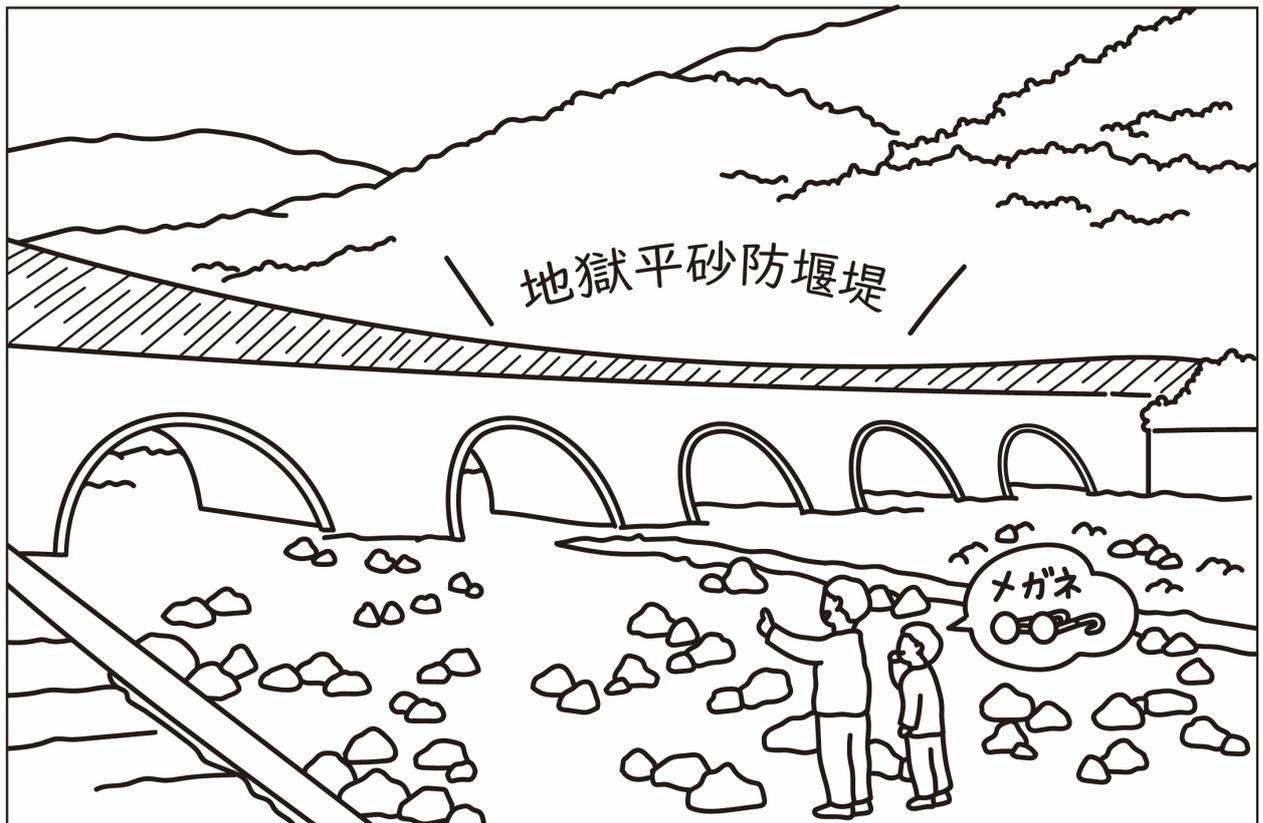
**わさび平小屋およびわさび平** 新穂高温泉から左俣林道を通して約 80 分でわさび平小屋に到着。周辺のわさび平では見事なブナの原生林を見ることができ、ブナ林からの美味しい湧き水も味わうことができる。

## 1-③：この地の災害と防災の歴史を学ぶ

蒲田川は急流な河川であること、両側の谷地形が急峻であることから、大量の土砂が流れ込んでいる。そのためたびたび水害と土砂崩れ、火山活動、地震などの災害に見舞われてきた。また大正 14（1925）年の焼岳大爆発では、足洗谷より土砂を押し流して、蒲田や中尾の橋は大破して交通が途絶え、人々は大変動揺した。

外ヶ谷深層崩壊跡は、新穂高ロープウェイが設置されている千石尾根の南側斜面にある大きく崩壊した跡で、明治 22（1889）年 7 月、豪雨により大崩壊したものである。海洋堆積物である美濃帯の堆積岩に白い岩脈が貫入した岩盤が露出している（奥飛騨ジオパーク構想のジオサイトに選定）。

蒲田トンネルを抜けた橋の先に、「奥飛騨さぼう塾」があり、奥飛騨の災害史と防災の記録がわかりやすく展示されている。たから流路工公園は蒲田川と平湯川の合流部に設けられた砂防施設で、周囲の景観と自然に配慮しながら、河原の石を利用して、床固工、帯工、護岸、魚道等に活用している。親水公園、露天風呂、遊歩道も整備され、訪れる人の憩いの場となっている。地獄平砂防堰堤は水害や土砂災害から下流の温泉郷を守る砂防ダム。メガネのようなユニークな形をしており、大暗渠砂防堰堤と呼ばれ、全国では 4 例目である。



**外ヶ谷深層崩壊跡** 県道槍ヶ岳公園線を新穂高方向に向い、蒲田温泉～槍見温泉のあたりで、右前方上方に楕円形に山の斜面が崩れ落ちた跡が見える。

**地獄平砂防堰堤** 蒲田川に架かる大暗渠砂防堰堤。昔、この周辺は蒸気が噴き出していたことから、地獄平と呼ばれていた。平時には魚や水生生物の往来を妨げず、中小増水時には水と土砂を下流に流し、大規模な増水時には堰堤上流に土砂を堆積させ、土砂を制御出来るように造られている。

## 1-④：古をしのぶ中尾峠から焼岳へ

中尾高原の「星の鐘」スポットからは焼岳の噴煙を上げるダイナミックな景観が楽しめる。この先を進むと、中尾温泉を抜けて、中尾峠を経由する昔からの焼岳の登山ルートである。中尾峠は、飛騨から信州への玄関口として江戸末期より交通の要路であった。

焼岳は飛騨山脈の中で唯一の活火山で、鐘状火口（トロイデ）に属する。焼岳火山群は岩坪山、大棚、割谷山、アカンダナ山、白谷山、焼岳となっており、現在登れるのは焼岳のみである。今の焼岳は実は昔、飛騨地方では硫黄岳（いおうがたけ）と呼ばれており、中尾峠を隔ててすぐ北にある小さな頂上を焼岳と呼んでいた。しかし信州（長野県）側では飛騨と全く逆の呼び方がされていて、それが現在の呼び名として定着した。奥飛騨温泉郷の温泉はこの活火山「焼岳」の恵みである。



**「星の鐘」スポット** 中尾高原エリアの星の鐘前バス停に隣接。奥飛騨温泉郷の豊富な温泉のエネルギー源となっている活火山・焼岳の景観を手軽に楽しめる。

**中尾峠** 中尾高原バス停から中尾高原を経て、焼岳登山口、白水の滝、秀綱神社を経て中尾峠へ。約4時間弱の道のり。中尾峠から焼岳北峰はさらに1時間強。ずっと登り道なので、体力は必要なルートである。

**焼岳** 焼岳を中心とする焼岳火山群は、新旧二つのグループからなる火山の集合体である。中央の焼岳と、右側に連なる白谷山、アカンダナ山は2万6千年前から活動を始めた新期焼岳火山であり、焼岳の左に続く尾根上の岩坪山と手前に広がる大棚は12万年前から8万年前にかけて活動し、焼岳左奥の割谷山は7万年前に活動した、旧期焼岳火山である。

## 1-⑤：登山ガイドを育んだ地

古くから平湯や蒲田は湯治の温泉として知られていたが、昭和9（1934）年の国鉄高山本線の開通を契機に観光開発が進められるようになり、同じく昭和9（1934）年には中部山岳国立公園の指定を受け、昭和10（1935）年に村営双六小屋が竣工する等、登山を中心に観光客を集めるようになった。公園内の乗鞍岳・焼岳・双六岳・笠ヶ岳・槍ヶ岳・穂高岳へのアルピニスト登山道は多くの登山者を惹きつけ、この地域の神坂、中尾出身者による登山ガイドは登山ブーム・観光・自然愛護の基盤となった。

昭和21（1946）年からはじまった「国民体育大会」。昭和40（1965）年第20回大会は岐阜県の県下各地の都市で種目別に分担して開催された。上宝村（当時）は「登山部門」を担当することとなった。この大会は、経済成長が目に見えてきた中、温泉地の活況、登山の素晴らしさに「観光上宝」を宣伝するまたとない機会でもあった。



**第20回国民体育大会の登山部門コース** 国体開催を契機に、登山道やアクセス道路も改善された。現在でも良く利用される登山コースなので、これらのコースをたどってみるのもいいだろう。

部門/コース	1日目	2日目	3日目	
一般部門	A	新穂高→槍平→槍ヶ岳山荘	槍ヶ岳→南岳→北穂→奥穂→穂高岳山荘	穂高岳→白出沢→新穂高
	B	新穂高→白出沢→奥穂高→穂高岳山荘	奥穂高→潤沢岳→北穂高→南岳→槍平小屋	槍平→奥丸山→中崎山→新穂高
	C	新穂高→笠新道→笠ヶ岳山荘	笠ヶ岳→大ノマ乗越→双六岳→槍ヶ岳山荘	槍ヶ岳→飛騨沢お花畑→奥丸山→槍平→新穂高
高校生部門	D	新穂高→中崎山→奥丸山→槍平小屋	槍平小屋→槍ヶ岳山荘→双六岳小屋	双六→大ノマ乗越→秩父平→笠新道→新穂高
	E	新穂高→ワサビ平→大ノマ乗越→双六小屋	双六→三俣蓮華→双六→大ノマ→笠ヶ岳山荘	笠ヶ岳山荘→クリヤ谷→槍見
役員案内	新穂高→鍋平→西穂山荘→独標→西穂山荘	西穂山荘→新中尾峠→中尾→新穂高	-	

## 新穂高温泉ならではの価値・魅力 2

### 絶景 ロープウェイで訪れる標高 2,000m の世界

かつてはアルピニストだけしか目にすることができなかった北アルプスの壮大な山岳景観を、年間を通して、誰でも楽しむことができるのは新穂高ロープウェイのおかげである。

標高 2,150m の西穂高口駅では軽装の観光旅行者と本格的な登山者が混在する。

新穂高温泉駅から鍋平高原駅まではロープウェイの勾配としては日本一の急こう配を登る。

**2-①：ロープウェイで一気に標高 2,000m の高所へ**

**2-②：土石流がつくった広大な河岸段丘・鍋平**

**2-③：冬山の世界へ 新穂高ロープウェイの開発**

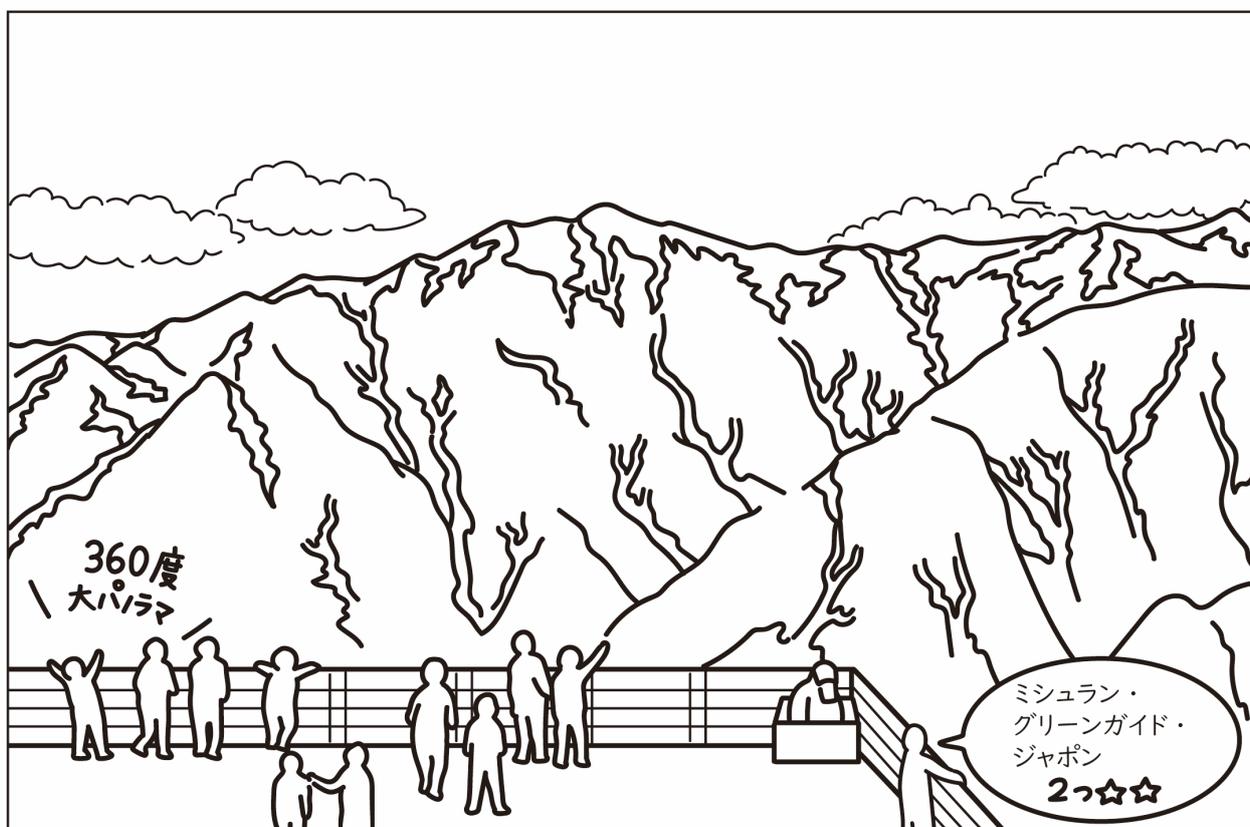
## 2-①：ロープウェイで一気に標高 2000m の高所へ

新穂高ロープウェイの終点、西穂高口の駅舎を出ると標高 2,150m の千石園地（頂の森）である。

西穂高口駅の屋上にある展望台は、西穂高岳、槍ヶ岳、笠ヶ岳などの北アルプスの山々を 360 度の大パノラマで見ることができ、ここからの眺望は「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」で 2 つ星として紹介されている。

展望台周辺の白い岩石は「滝谷花崗閃緑岩」と呼ばれ、穂高連峰の凄まじい速さでの隆起と浸食を経て形成された若い深成岩であることが知られているので、探してみるのもいい。

ここから西穂高への登山は、亜高山帯の針葉樹林に囲まれた散策路を進んで行くが、先に進むと徐々に植生も移り変わり、山岳のエリアとなっていく。



**新穂高ロープウェイ 西穂高口駅** 新穂高ロープウェイの終点駅、標高 2,156m。地上 4 階建ての駅舎で、屋上は展望台となっている。車椅子の方もエレベーターを利用して展望台に上ることができる。春と秋には期間限定で夜間の星空観賞便が運航される。

**頂の森** 頂の森は令和 6（2024）年 10 月にはリニューアルを終了し、登山客でなくとも絶景を楽しむ槍の回廊や森のテラスなど、大自然と触れ合える新たなスペースとして生まれ変わった。

**滝谷花崗閃緑岩** 約 120 万年前地下の深い場所で生成され、地殻変動により 6,000m 近く上昇したと考えられている。地表で見られる世界で最も若い花崗岩（通常地上で見られる花崗岩の生成年代は数百万年～1 億年前）といわれていた。ただし、現在は「黒部川花崗岩」が、およそ 80 万年前と最も若い花崗岩とされている。どちらの岩石も北アルプスの脅威的な隆起速度を物語っている。

## 2-②：土石流がつくった広大な河岸段丘・鍋平

鍋平高原駅、しらかば平駅周辺には、自然豊かな散策エリアが広がっており、鍋平高原自然散策路と南側に位置する鍋平園地ウォーキングロードがある。自然散策路は、ブナやミズナラ、シラカバなどの落葉樹林に囲まれ、樹林内の散策をゆっくり楽しむことができるコースである。散策路の途中には、槍ヶ岳や蒲田川対岸の笠ヶ岳山塊を望めるビューポイントもあり、北アルプスの雄大な景色に出会えるのも魅力である。冬季にはスノーシューを使ったハイキングコースとしても人気があり、雪に覆われた静寂の森を歩く特別な体験ができる。

一方、鍋平園地ウォーキングロードは、シラカバなどの広葉樹林やカラマツなどの針葉樹林が織りなす美しい景観の中を歩けるコースであり、春から秋にかけては山野草が彩りを添え、比較的高低差が少なく、整備された木道や東屋も設けられているため、四季折々の風景を楽しむことができる。



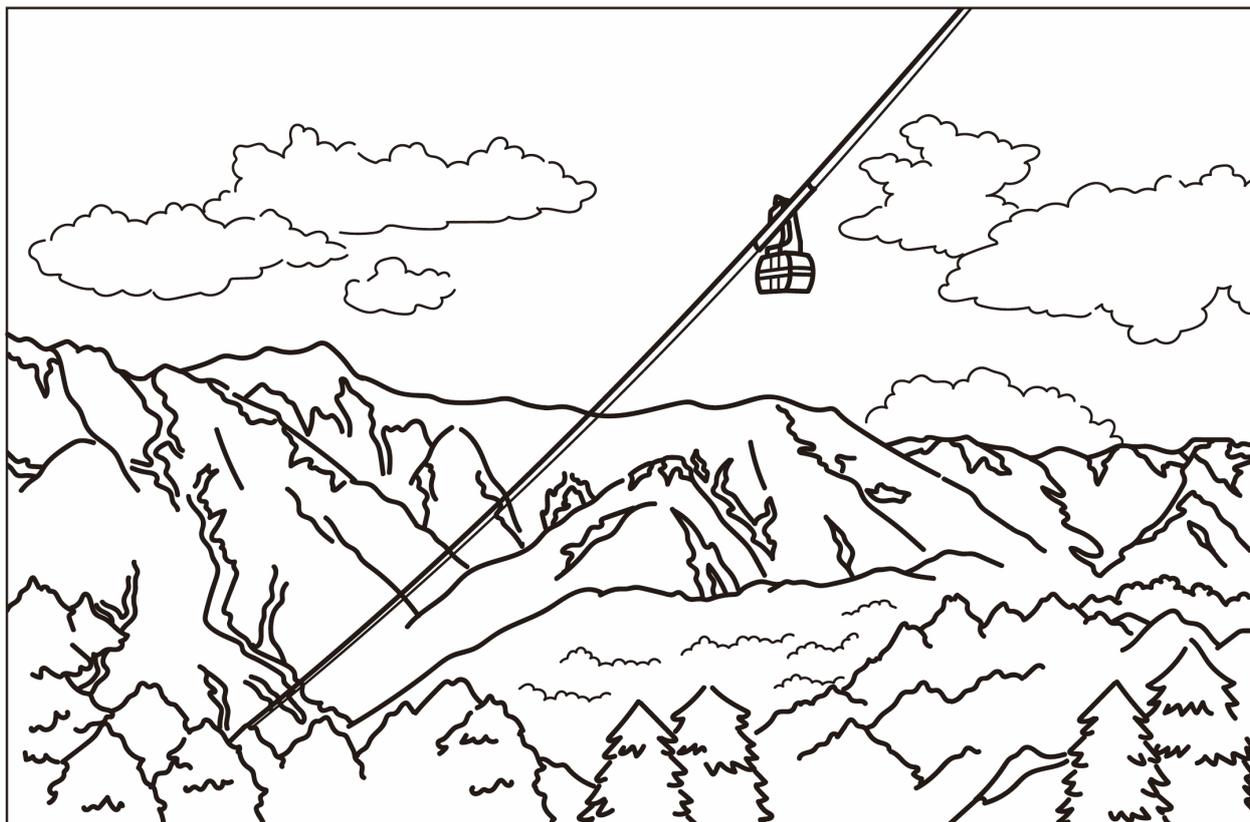
**スノーシューハーフツアー** 鍋平高原の森の中をガイドと巡るツアー。雪の積もった冬だからこそ、鍋平は周囲の険しい山腹とは異なる緩やかな斜面であることが感じ取れる。また、林床が雪に覆われていることから、森の中を比較的自由に歩いて回ることができる。ウェア、シューズなどレンタル一式セットの設定もあり、初心者でも参加しやすい。(1月初旬～3月初旬に実施)。予約制で、新穂高ロープウェイのホームページから申し込みが可能。

## 2-③：冬山の世界へ 新穂高ロープウェイの開発

新穂高ロープウェイは通年営業のため、冬でも気軽に標高 2,000m を超える絶景を楽しむことができ、冬山登山の主要なルートの一つとなっている。また、ロープウェイ駅の周辺で手軽に冬山の魅力を感じることができ、雪遊び、スノーシューでの散策等も楽しむことができる。厳しい自然環境は言わずもがなのこの地にロープウェイを建設するには様々な苦労があった。

昭和 36 (1961) 年 7 月、社団法人「奥飛騨開発公社」が設立。戦後まだまだ未開の土地であり、一部登山者の山岳基地であった岐阜県の新穂高温泉から、長野県の上高地を山岳ロープウェイで結ぶ、「西穂高ロープウェイ構想」が生まれ、奥飛騨開発公社を母体とした「奥飛観光開発 K K」が創立された。

昭和 39 (1964) 年、厚生省に中部山岳国立公園運輸施設事業執行認可申請を提出したが、自然保護と開発との調和問題について、調査、検討が長きにわたって続けられることとなった。その結果、昭和 43 (1968) 年 11 月に、現在のルート (新穂高駅から西穂高口) に路線変更し、昭和 44 (1969) 年工事執行の認可、索道免許が得られた。昭和 45 (1970) 年 7 月オープンを迎え、今に至る。工事中には、工事用索道のロープの摩耗が激しく、工期を大いに狂わせた。コンクリートタワーの撤去工事に伴う人身事故、日本で初めてクマにかまれて労災になったという事故も発生したとのことである。



**冬の新穂高ロープウェイ** 冬も通年営業を行っているが、始発・終発がそれぞれ 30 分ほど短縮される。冬は一面の雪景色を楽しむことができる。第一ロープウェイはスケルトンタイプのゴンドラで、足元に広がっていく自然豊かな鍋平高原を楽しむことができる。また、第 2 ロープウェイは 2 階建てゴンドラであり、日本唯一である。

## 新穂高温泉ならではの価値・魅力 3

### 秘湯 奥飛騨温泉郷の奥座敷

奥飛騨温泉郷は、平湯、福地、新平湯、栃尾、新穂高という5つの温泉からなる。新穂高はその最も奥まった場所に位置しており、蒲田、中尾、新穂高という3つの源泉からなる。温泉ごとに泉質・成分が変わって行く魅力があり、そのほとんどが露天風呂を備え、露天風呂数は日本一とも言われている（露天風呂天国）。

活火山“焼岳”によってもたらされる温泉は、いずれも豊かな湯量を誇る。新穂高温泉は蒲田川沿いに61か所の源泉があり、奥飛騨温泉郷の中でも最も多い。

**3-①：露天風呂からの雄大な眺めが魅力の温泉宿**

**3-②：3つの異なる源泉を楽しむ**

**3-③：蒲田川と蒲田温泉**

**3-④：文豪と新穂高温泉**

### 3-①：露天風呂からの雄大な眺めが魅力の温泉宿

新穂高温泉の宿の露天風呂からは、飛騨山脈の山々や、傍を流れる蒲田川や溪流の流れと水音、夜には満点の星空を楽しむことができる。このあたり一帯は北アルプス（飛騨山脈）の足下に当たり、その山々の間を蒲田川が深いV字形に谷を刻んでいる。

各宿はこの蒲田川沿いに湧き出した温泉群を活かした露天風呂を作っており、宿それぞれに異なる眺望と趣向を凝らした魅力的なものとなっている。



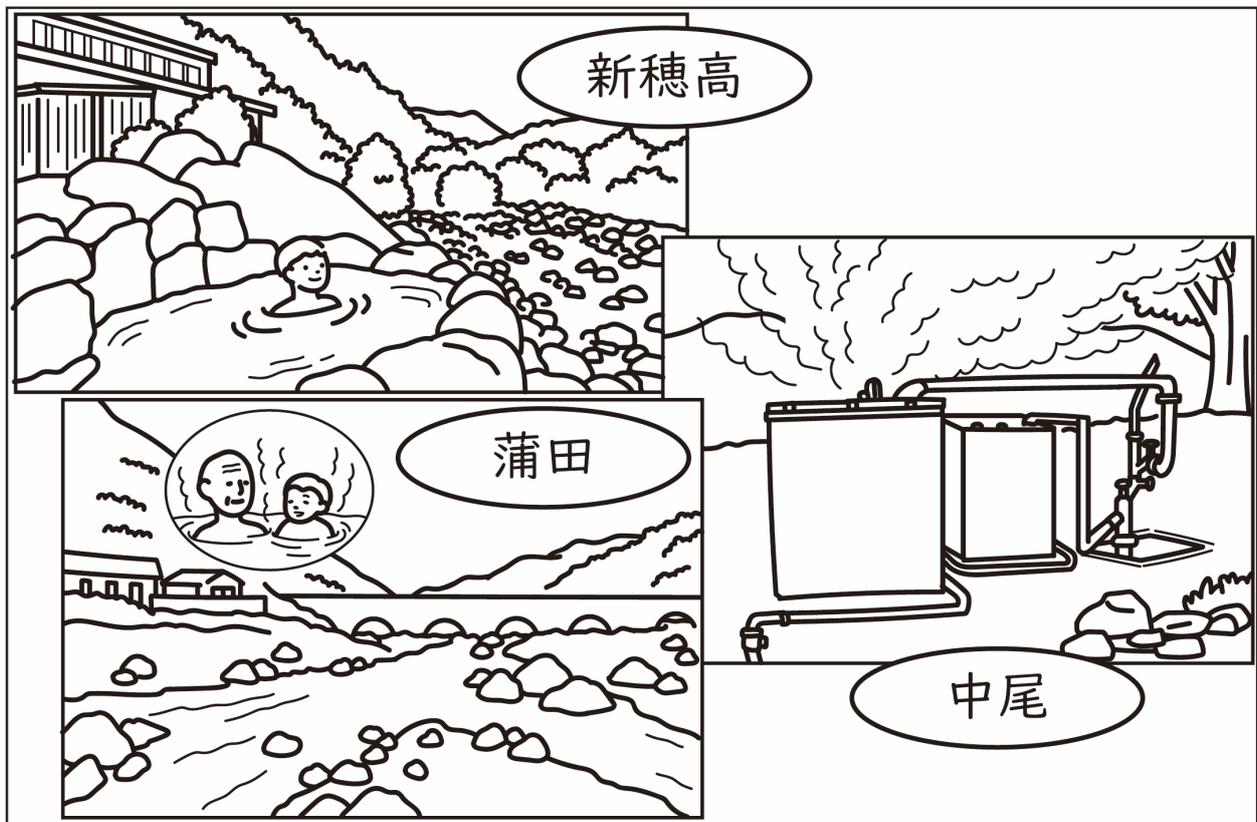
**新穂高の湯** 露天風呂天国の奥飛騨温泉郷を象徴するダイナミックな公共露天風呂。湯船のすぐそばを清流が流れ、心地よい湯浴みが楽しめる。

**蒲田川沿いに湧き出す温泉** 飛騨山脈一帯の雪どけ水や雨水は、地下に浸透して焼岳火山の熱源に熱せられることで、熱い温泉や蒸気として地中に貯留されている。蒲田川流域では、過去の火砕流や大量の土砂流出によって厚く土砂が堆積した地形が形成されており、この堆積物を蒲田川が浸食することにより、温泉の湧出口が川沿いに多く現れている。

### 3-②：3つの異なる源泉を楽しむ

新穂高温泉の源泉は、**新穂高**、**中尾**、**蒲田**の3つに分けることができ、それぞれに特徴があることから、それぞれの温泉宿に宿泊し、その違いを楽しむのもよい。

**新穂高温泉**は、**蒲田川**の川原から温泉が湧き出て、川沿いに数件のホテルや旅館などが立ち並んでおり、雄大な山々を眺めながら、野趣あふれる雰囲気を楽しめる。**中尾温泉**は昭和40(1965)年ごろ、ボーリング中に**水蒸気を噴出(蒸気泉)**したことから、大きな水槽に蒸気を入れ、各宿泊施設に配管しているもので、**源泉としては珍しいものである**。**蒲田温泉**は、天正年間(1573年~1592年)からの古い**温泉地**と伝えられているが、大正9(1920)年の洪水で温泉宿が流出した歴史がある。(3-③参照)昭和31(1956)年に新源泉を発掘し、温泉宿が再興された。



**新穂高温泉エリア** 新穂高温泉エリアは高山ICから国道41号、国道158号・国道471号を経て、車で約70分。源泉の温度も高く、湯量も豊富。無色透明の単純温泉、硫黄泉、炭酸水素塩泉、塩化物泉など、種類も多い。

**新穂高温泉** 新穂高温泉エリア最奥部に位置する。蒲田川の上流、右俣谷・左俣谷が合流する地域で、この地域の河原からは温泉が湧き出て、石で囲った温泉は登山者などを癒していたという。

**中尾温泉** 中尾地区は蒲田川の南東岸の高台に位置する比較的新しい温泉であり、道沿いにたくさんの分湯槽が見られ、温泉の湯気が立ち上る温泉の風情を感じられるエリアである。

**蒲田温泉** エリア内では蒲田川の下流部に位置する。温泉の地熱により早春でも、溪流魚が餌を追える程度に活動し始めるため、早春から溪流釣りが楽しめる場所として知られている。

### 3-③：蒲田川と蒲田温泉

蒲田温泉は新穂高温泉の中でも古くからの湯治場として知られ、高山藩の儒者角田亨庵が延宝5(1677)年に書いた「蒲田温泉記」に記載がある。これによれば、蒲田温泉が発見されたのは、16世紀後期の天正年間(1573年～1592年)のこととされている。天正年間、飛騨が金森氏支配になったころ、東濃から来た病の父を蒲田温泉に入浴させ、治癒したという孝子伝説を載せている。伝説であるとも考えられているが、古くから病に苦しむ人々が遠くからも訪れていたことの表れであると思われる。また、療養以外に温泉熱が地元の女性たちが紡ぐ繊維の材料となる麻などを蒸すために使われている情景が描かれている点も興味深い。

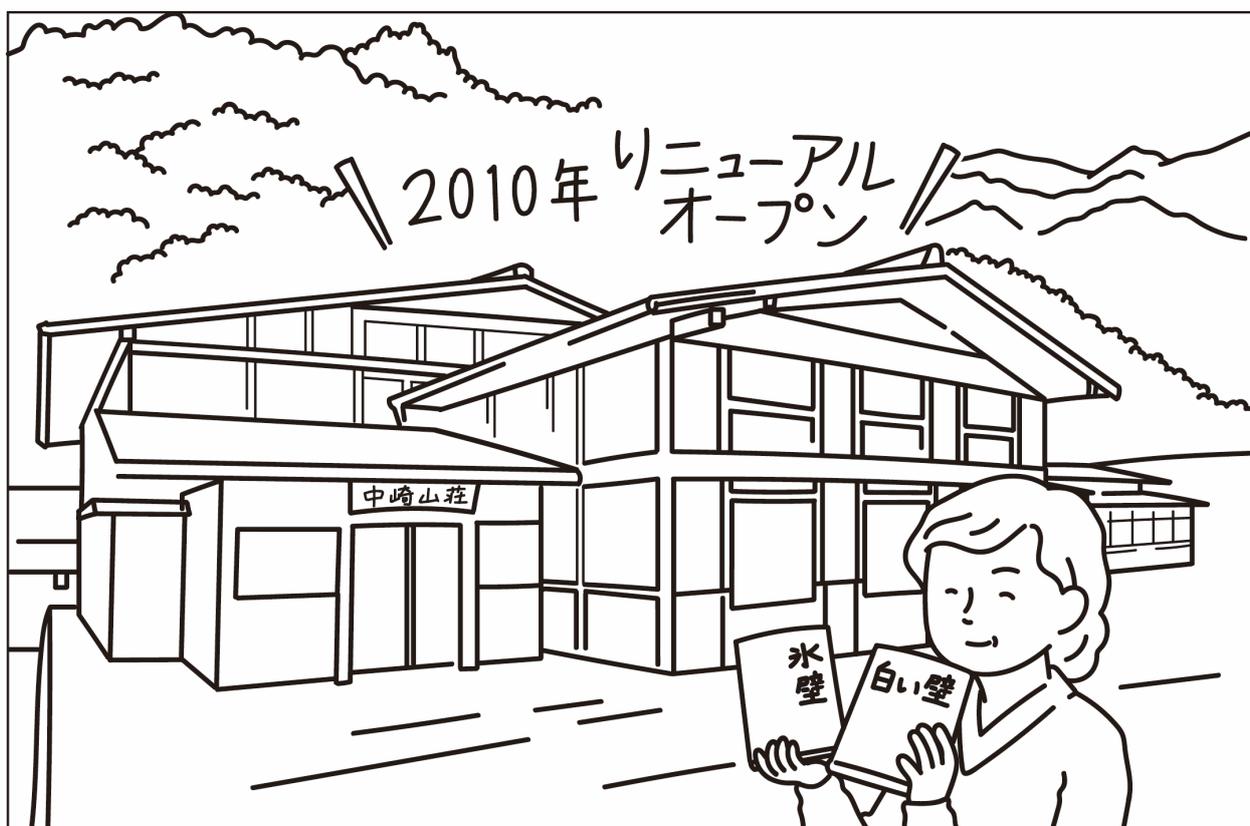
しかし、大正9(1920)年の洪水で、温泉宿が流出、850m下流に移転したのが今の蒲田温泉である。温泉宿の目の前には今もまるで何もなかったかのように、蒲田川が流れている。



**蒲田温泉記の記載** 温泉記によれば、東美濃に何らかの腫物を長く患っている人がおり、そのことを悲しんだ子が、薬師如来に祈願したところ、飛騨の東端にある温泉のことを教えられる。子は老父を背負い、その地を目指し、深山幽谷を超えて蒲田へたどり着き、岩間に温泉の湧き出るのを見つけ、その湯に浸ると次第に病は癒えていった。その後慶長(1596～1615年)の頃には病気治療に訪れる人のための宿泊小屋までできたという。この時代今ほど整った道がなかった中、人々の病の治癒と温泉にかける思いを知ることのできるエピソードである。

### 3-④：文豪と新穂高温泉

井上靖の『氷壁』や新田次郎の『白い壁』などの小説に登場するのが、新穂高温泉にある「中崎山荘」である。ここはかつて、笠ヶ岳鉾山の関係者や林業従事者のみが訪れる秘境であった。昭和 20（1945～1954）年代後半、登山ブームの到来などを機に、登山者が増加。林業用の作業小屋だった所に登山者が泊まるようになり、「中崎山荘」が開業した。その後も新穂高温泉を代表する湯宿として親しまれていたが、平成 19（2007）年、蒲田川の砂防工事のために、およそ 50 年の歴史に幕を閉じることになった。しかし、平成 22（2010）年、約 2 年半ぶりの休業期間を経て、日帰り入浴施設「中崎山荘 奥飛騨の湯」としてリニューアルオープンしている。



**中崎山荘 奥飛騨の湯** 新穂高ロープウェイ第一乗場付近に位置する日帰り入浴と食事処を兼ね備えた施設で、源泉かけ流しのお湯が楽しめる。食事だけの利用も可能。

**アルプス登山の基地** 新穂高は戦前・戦後「笠ヶ岳鉾山」や木材の産出などでも注目されていたところ、昭和 32（1957）年、北陸電力により、「中崎発電所」が完成し、交通面でも自動車が入るようになり、アルプス登山の基地として広く知られるようになった。

# Kita Alps Traverse Route

「Kita Alps Traverse Route」ならではの体験ストーリー集 -新穂高温泉エリア編-

2025年3月

環境省信越自然環境事務所 中部山岳国立公園管理事務所

〒390-1501 長野県松本市安曇 124-7

TEL 0263-94-2024

FAX 0263-94-2651